

【政策1 子どもの育ちと学びを支える】

【基本目標】

子どもの健やかな成長を地域全体で支え、未来を担う人を育むまちづくり

【現状】

本町は、保育や放課後の居場所づくり、ふるさと教育「くんねっぶ学」や地元農畜産物を生かした食育など、地域とともに子どもを育む取り組みを重ねてきました。

一方で、出生数の減少と若年層の転出により子どもの数は年々少なくなり、共働き世帯の増加や農繁期の就労など子育て家庭を取り巻く環境も変化しています。

【課題】

家庭の状況に応じた子育て支援、発達に心配のある子どもへの切れ目ない支援、保育や放課後を支える人材の確保が必要です。

今後の学校の在り方や学習環境の充実、給食センターの老朽化への対応は、見通しを早期に示し、町民と情報を共有しながら進める必要があります。

【指標】

(設定作業中)

【施策と取組】

1ー(1) 就学まで切れ目なく支える

SDGs ナンバー 3, 5, 8, 11, 17

①就学前の育ちと学びを支える

子ども一人ひとりが安心して過ごし、遊びと体験を通じて就学への力を育めるようにします。

保育人材の確保と多様な保育への対応により質の高い保育・幼児教育を提供し、発達支援と小学校との引継ぎにより就学への移行を円滑に進めます。

②学びと成長を支える

子どもが放課後を安全に過ごし、多様な人や体験の中で自立性と社会性を育めるようにします。

児童センターの機能の充実を図り、様々な体験や地域の大人との交流など本町ならではの体験を取り入れます。

③発達心配を早期に支える

発達上の心配を早期に把握し、発達段階に応じて必要な支援が途切れないようにします。

健診や保育・相談の場で把握した心配ごとを速やかに相談・支援へつなぎ、北見市など広域の専門機関と連携して、就学や進学のと期に応じて情報を確実に引き継ぎ、必要な支援を行います。

1-(2) 一人ひとりの学びと成長を支える

SDGs ナンバー 2, 3, 4, 5, 7, 10, 11, 16, 17

①基礎学力と考える力を育てる

子どもが自ら問い、学んだことを生活や地域の課題解決に生かす力を身に付けます。

少人数の良さを生かしたきめ細かな指導で基礎学力と考える力を育て、ふるさと教育「くんねっぷ学」、ICTを活用した個別に最適な学びと協働的な学び、探究的な学習、外国語教育を充実させます。

②健康な生活と食への理解を育てる

子どもが自分の心身と食を大切に、生涯にわたる健康習慣を身に付けます。

学校・家庭・保健部門が連携した健康教育と、地元農畜産物を生かした給食の提供・食育を進め、給食センターは老朽化と児童生徒数の減少を見据えながら将来の提供体制を検討していきます。

運動習慣の定着、スポーツや運動機会の提供により体力向上を目指します。

③地域とともに学校をつくる

家庭と地域の意見・資源を学校運営に生かし、地域全体で子どもの成長を支えます。

学校運営協議会を核に地域の意見を反映し、小中学校、認定こども園、町内の高等学校とも連携して人材育成につなげるとともに、学びの情報を分かりやすく発信し、地域資源や人材を活用しながら地域に根付いた学校づくりを進めます。

④学ぶ環境を整え、悩みや困難を支える

学ぶ場所や心身の状況にかかわらず、すべての子どもが安心して学べる環境とするため、学校施設の点検や維持管理に努めるとともにICT環境の充実、いじめや不登校などの相談支援、支援員による個々に応じた学習環境の充実を図ります。

今後の学校の在り方についての考えを早期に示し、児童生徒にとって良好な教育環境とするための協議を進めていきます。

【政策2 生涯の学び・文化・スポーツを楽しむ】

【基本目標】

だれもが生涯にわたり学び、文化とスポーツを楽しみ、心豊かにつながるまちづくり

【現状】

人口減少や分権社会の中で、国で設計した制度の運用が地域に任されることで、地域づくりに大きな影響を受ける場合があります。住民が中心となって地域づくりを考え、実践することにより、国の制度が変わっても、持続的な地域づくりが維持されなければなりません。そのためにも社会の変化に対応した学習機会の提供と、地域全体でのつながりづくりが求められています。

【課題】

文化の担い手の発掘・養成と団体支援、参加しやすい学習機会の拡大、子どもたちが地域でさまざまな体験ができる推進体制と指導者の確保が必要です。

老朽化した社会教育施設やスポーツ施設は、他の教育施設を中心とした複合化や近隣市町との相互利用も含め、町の規模に見合ったあり方を検討する必要があります。

【指標】

(設定作業中)

【施策と取組】

2-(1) 生涯にわたる学びと交流を支える

SDGs ナンバー 4, 10, 11, 16, 17

①社会教育施設を安全に使い続ける

学びと交流の要である社会教育施設を安全に使い続けられるよう、計画的に維持・更新します。

公民館や図書館等の老朽化を踏まえ、他の教育施設等との複合化を含め機能の集約と配置を検討し、計画的な修繕とだれもが利用しやすい設備への改善により安全性を確保します。

②環境を整え、学びの機会を広げる

学びを支える人と環境を整え、町民が参加しやすい学習機会を広げます。

指導者の発掘・養成と団体支援を含め、それぞれのライフステージに合わせた学習機会の充実に努めます。

③読書を通じた学びと交流を支える

読書に親しむ機会を広げ、図書館を学びと交流の場として育てます。

老朽化した図書館は町の規模に見合った複合化を視野に検討を進め、学校図書との連携や読書バリアフリー、多言語資料の整備によりだれもが利用しやすい図書館とします。

④青少年の成長と地域への愛着を育てる

青少年が多様な体験を通じて成長し、地域への愛着と社会性を育めるようにします。

体験活動や地域行事、ボランティアを通じて地域の大人と関わり社会性を育める場をつくり、青年団体の活動支援により将来の地域活動を支える人材を育成します。

⑤文化・芸術を広げ、郷土の歴史を守る

文化・芸術に親しむ機会を広げ、地域での活動の機会充実を図ります。

郷土資料の保存と公開により開拓以来の本町の歩みを次の世代へ伝えます。

2-(2) だれもがスポーツを楽しめる環境をつくる

SDGs

ナンバー 3, 11, 17

①町民のスポーツ活動を支える

だれもがスポーツに親しめる機会をつくるため、スポーツ団体や指導者をはじめ、スポーツに関わる町民の活動を支援します。また、関係各機関と連携し、さまざまな年代や目的に応じた事業を展開しながら、多様なニーズに対応します。

②安全で使いやすいスポーツ施設を守る

スポーツ施設の安全性と利便性を確保し、継続的に利用できるようにします。

町内のスポーツ施設の老朽化に対し計画的な点検・修繕等を実施し、安全性を確保しながら長寿命化を図ります。さらに、持続可能なスポーツ施設のあり方を検討します。

【政策3 健康と福祉を地域で支える】

【基本目標】

すべての町民がともに支え合い、健やかに安心して暮らし続けられるまちづくり

【現状】

本町は、住民同士の支え合いを基盤に、町内会や実践会、民生委員児童委員による見守り、健診・保健指導、障がい福祉や介護のサービスを通じて健康づくりと福祉を進めてきました。支援を必要とする人が増える中で福祉・介護の担い手は不足し、医療機関も限られています。

また、特別養護老人ホームである静寿園は施設が老朽化し、維持管理費が増加しています。さらに、医療費や介護給付費も増加傾向にあります。

【課題】

高齢、障がい、生活困窮など重層的な困りごとを抱える人を早期に把握して支援へつなぐ包括的な支援体制、見守りの担い手の負担を分かち合う仕組み、近隣医療機関との連携による診療体制の確保が必要です。

静寿園の老朽化や介護人材の不足、障がいのある人の住まいの確保など広域連携も視野に検討が必要です。

【指標】

(設定作業中)

【施策と取組】

3－(1) 身近な地域で支え合う福祉

SDGs ナンバー 1, 3, 11, 17

①見守りから相談・支援へつなぐ

日常の見守りで変化に気づき、早い段階で相談と支援につなぎます。

担い手の負担を分かち合える見守りの仕組みと地域包括支援センターをはじめとする分かりやすい相談窓口を整え、高齢・障がい・生活困窮・子育てなど分野をまたいで複合的な困りごとを抱える人への包括的な相談体制を充実させます。

②福祉を担う人を育てる

福祉を担う人材と団体を育て、支え合いの活動が続く地域をつくります。

地域の支え合いを進めるとともに、負担が偏らない活動環境づくりを支援し、社会福祉協議会等と連携して住民が福祉に関わる機会を広げます。

3-(2) 妊娠から就学まで切れ目なく支える

SDGs

ナンバー 3, 5, 8, 11, 17

①妊娠・出産から子育て家庭を伴走支援する

妊娠期から子育て期まで、子育て世帯の不安や困りごとを早期に把握し、切れ目なく支援します。

こども家庭センターの母子保健機能と児童福祉機能が中心となり、こども園や子育て支援センター、学校等と連携し必要な支援につなぎます。

産後ケア事業や家庭支援事業など利用しやすい体制を整備していきます。

3-(3) 健康づくりと地域医療を守る

SDGs

ナンバー 3, 8, 9, 11, 17

①健康づくりと疾病予防を進める

生活習慣の改善と早期発見により、健康で過ごせる期間を延ばします。

広報等による周知と受診しやすい環境づくりで健診の受診率向上を図り、食生活・運動・口腔・こころの健康に関する保健指導により生活習慣の改善と早期受診につなげます。

②地域で必要な医療を守る

身近な場所で必要な医療を受け続けられる体制を確保します。

町内唯一のクリニックの診療継続を支援し、北見医師会や近隣市町の医療機関との協力体制を協議するとともに、安心して医療を受けられるよう検討を進めます。

3-(4) 障がいのある人の地域生活を支える

SDGs

ナンバー 3, 8, 10, 11, 17

①社会参加と希望に合った活動・就労を支える

障がいのある人が希望に応じて社会参加、または就労し、活躍できるようにします。

就労継続支援事業所や関係機関との連携により本町の実情に合った就労の場をつくり、地域行事や交流活動への参加を支えて障がいの有無にかかわらず関わり合う機会を広げます。

②安心できる地域生活を支える

相談と生活支援により、障がいのある人が安心して地域で暮らせるようにします。

本人と家族の高齢化を踏まえ、相談支援事業所等と連携して利用計画づくりと日常の相談体制を確保し、緊急時の受け入れや住まいの場の確保を広域連携も視野に検討します。

3-(5) 高齢者の自立と安心を支える

SDGs

ナンバー 3, 11, 17

①交流と生きがいの場をつくる

高齢者が役割と交流の機会をもち、生きがいをもって暮らせる場をつくれます。

老人クラブなどの活動や既存施設を活用した日常的な交流や活動の場づくりを支援して高齢者の知恵や技能を地域活動や子どもの体験学習に生かし、担い手として活躍できる機会を広げます。

②介護を予防し、自立を支える

心身の健康維持を図り、介護が必要な状態になることを防ぎます。

地域包括支援センターを中心に高齢者の困りごとを早期に把握して相談へつなぐ仕組みを地域とともにつくり、運動・栄養・口腔・社会参加を4つの柱とした介護予防の活動を身近に広げます。

③地域で暮らすための介護・生活支援

介護が必要になっても、住み慣れた地域で暮らし続けられるようにします。

特別養護老人ホームである静寿園は、老朽化による施設の維持管理、高齢者人口の減少や介護人材の確保などの課題を整理し、建て替えも含めた検討を進めます。

介護人材の確保・定着と在宅の介護・生活支援サービスの維持を図ります。

3-(6) 生活の安定と社会保障制度を支える

SDGs

ナンバー 1, 2, 3, 11, 17

①生活の困難を早期に支える

困窮や孤立の深刻化を防ぎ、生活の安定と自立への一歩を支えます。

相談窓口の周知と関係機関との連携により支援が必要な状況を早期に把握し、生活保護制度を適正に運用しながら、就労や家計の改善など状況に応じた個別支援で自立を支えます。

②医療保険を安定して運営する

保険財政の健全性を保ちながら、必要な医療を安心して利用できる制度を維持します。

北海道や後期高齢者医療広域連合と連携して国民健康保険と後期高齢者医療の制度を周知し、適正な賦課と徴収に努めるとともに、データに基づく保健事業で重症化予防と医療費の適正化を図ります。

③介護保険を持続可能に運営する

必要な介護サービスを将来にわたり利用できる、負担と給付の均衡した制度を保ちます。

要介護認定の適正化及びケアプランの点検で給付の適正化を進め、介護保険事業計画に基づきサービス量と保険料を適切に定めるとともに、収納の確保と低所得者等の負担軽減を検討します。

【政策4 農と地域産業を育てる】

【基本目標】

豊かな農業と多様な産業が調和し、次世代の担い手とともに発展し続けるまちづくり

【現状】

本町の基幹産業である農業は、畑作と酪農を中心に品質の高さが全国的に評価され、商工業や森林とともに、町民の暮らしと仕事を支え、農村景観を守ってきました。

一方で、農業後継者不足により農家戸数が大きく減少し、商工業でも経営者の高齢化が進むなか、買い物や飲食・宿泊の機能が限られ、消費が町外へ流れています。

【課題】

農地基盤の整備と農作業の省力化を進め、担い手の確保と経営継承を支援するとともに、商工業の事業承継を進める必要があります。

既存店舗の事業継続や商店街の機能を維持し、地元の農畜産物を生かした商品づくりなどにより、町の認知度向上や関係人口の拡大につなげていく必要があります。

【指標】

(設定作業中)

【施策と取組】

4－(1) 農林業を持続可能にする

SDGs ナンバー 3, 4, 7, 9, 11, 12, 13, 14, 15

①安定して続けられる農業経営

農業者が将来の見通しを持ち、安定して経営を続けられるよう支援します。

農地基盤整備による生産性向上とスマート農業技術の導入支援により省力化を進めます。また、農業試験場などの研究機関との連携を通じて新技術の普及を図るとともに、輪作体系を維持するために新たな作物の導入の可能性を検討します。

②農業と自然が共存する農村をつくる

農業の営みを通じて、農村の景観と自然環境がともに守られるようにします。

農地や森林が持つ多面的機能を保全するとともに、環境に配慮した農業に取り組むことで、生産性の向上と環境保全の両立を図ります。あわせて、有害鳥獣による農林業被害の軽減対策を進め、豊かな自然と農村景観の保全につなげます。

③次世代の農業担い手を育てる

次世代の農業の担い手を確保し、新規就農の促進と経営の継承を支えます。

町・ＪＡ・関係機関が連携し、新規参入の受け入れ体制と研修・経営開始の支援を充実させ、新規就農や法人化・経営継承を支援します。

④森林を育て、森林資源を循環させる

森林を適切に育て、森林が持つ働きを生かします。

計画的な間伐と植栽、林道の維持管理等により森林の多面的な機能を保全し、ゼロカーボンの取り組みとも連動させながら森林資源の循環的な活用を推進します。

4－(2) 地域の商いと仕事を育てる

SDGs ナンバー 3, 8, 9, 11, 12

①地元の食を生かし、商品開発と町のPRにつなげる

地元の農畜産物を生かした商品づくりと町内での消費につなげます。

農業者と商工業者の連携による加工品開発を支援し、ふるさと納税の返礼品や全国へ向けた販売、PRイベントなどを通じて町の認知度向上と関係人口拡大につなげます。

②身近な商店街と買い物環境を守る

身近な商店と買い物環境を守り、日常の暮らしを支えます。

既存店舗の事業継続を支援するとともに、新たな店舗出店や起業等を促進することにより商店街の活性化を図り、だれもが身近な場所で買い物できる環境を守ります。

③地域企業の経営と挑戦を支える

地域の企業が経営を続け、新たな挑戦に踏み出せるよう支えます。

商工会と連携して経営相談や事業承継、創業・新事業への挑戦を支援します。

4－(3) 地域資源で交流と仕事を生み出す

SDGs ナンバー 8, 9, 11, 15

①訓子府の魅力を磨き、訪れ関わる人を増やす

地域資源を生かして交流を生み、訪れ関わる人を増やします。

既存事業者の事業継続を支援しながら、事業者と連携した新たな取り組みによる魅力を創出し、ふるさと納税や関係人口づくりで本町に関わり続ける人を増やします。

【政策5 安全で環境にやさしく、住み続けられる暮らしを支える】

【基本目標】

安全と自然環境を守り、ゼロカーボンを進め、だれもが安心して住み続けられるまちづくり

【現状】

本町は、安全で落ち着いた住環境と良好な治安、常呂川の清流や農地、周囲の森林など豊かな自然環境に恵まれています。道路、上下水道、町営住宅、公園などの施設は老朽化が進み、更新と維持管理の負担が大きくなっています。

子育て世帯や勤労世帯向けの賃貸住宅が不足、また、高齢者などの移動手段の確保が切実さを増しています。さらに、異常気象による自然災害への備えや、2050年のゼロカーボンの実現に向けたエネルギー対応、ごみの減量・資源化も求められています。

【課題】

空き家や町営住宅を生かした住まいの確保と移住・定住の支援、上下水道などの計画的な更新、既存の輸送資源を生かした移動手段の確保と冬期の除雪体制の維持が必要です。あわせて、自然環境の保全と両立させながら省エネルギーと再生可能エネルギーの導入を進め、水質や生物多様性、森林と農地の機能、農村景観を将来世代へ引き継ぐとともに、環境学習を日々の行動につなげ、ごみの減量と資源化を進める必要があります。

災害に備えた自助・共助の強化と避難体制の整備、消防・救急体制の維持、特殊詐欺などへの対応により、日常の安全を将来にわたって確保していく必要があります。

【指標】

(設定作業中)

【施策と取組】

5－(1) 住まいと環境を整え、安心な生活を支える

SDGs

ナンバー 3, 4, 6, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14, 15, 17

①空き家と町営住宅を生かし、住まいを確保する

空き家と町営住宅を生かし、暮らしに合った住まいを確保できるようにします。

中古住宅や空き家の情報収集に努め、空き家バンク制度と残置物撤去補助等の周知を強化するとともに、空き家の貸出や管理不全空き家等への対応、町営住宅の計画的な維持管理を進めます。

②公共施設や公園、上下水道を適切に管理し将来へ引き継ぐ

上下水道の安定的な供給及び処理を行い、公園などの身近な公共施設とともに、将来世代へ確実に引き継ぎます。

上下水道は、アセットマネジメントに基づき更新と耐震化を計画的に進め、経営状況を公表するとともに、適切な維持管理を行い、安心安全な上下水道を継続します。公園は、遊具の更新や支障木への対応を進め、安全に利用できる環境を保ちます。

③移住から定住までを支える

移住を考える人を迎え、町に定住するまでを一貫して支えます。

お試し住宅など移住の受け入れ機能を充実させ、町の魅力のPRと、移住制度の分かりやすい提示、移住後に相談できる体制づくりにより定住へ結び付けます。

④脱炭素と地域エネルギーを進める

エネルギー使用と温室効果ガスを減らし、地域で生み出すエネルギーを暮らしと産業に生かします。

公共施設の省エネルギー化と住宅の断熱改修・高効率設備の導入支援を進め、太陽光やバイオマスなど地域資源の活用を検討し、農業・森林分野の二酸化炭素の削減と吸収を進めます。

⑤ごみを減らし、資源を生かし、清潔で環境にやさしい地域をつくる

町民・事業者・行政が環境負荷を減らし、限りある資源を地域全体で循環させ、清潔で快適な地域を保ちます。

排出の実態を踏まえたごみの減量と分別の周知や事業者への働きかけを行い、スマートフォンによる分別検索を活用するなど利便性の向上を図り、発生抑制と分別収集により再資源化を進めるとともに、町内会等の環境美化活動を支えます。

⑥安心で衛生的な生活環境を守る

犯罪がなく、清潔な生活環境を目指し、安心で衛生的なまちづくりを進めます。

町民が特殊詐欺などの犯罪にあわないよう広報に努め、警察などの関係機関との連携や防犯カメラの活用により未然防止を図るとともに、保護司の活動を支援し、再犯防止に関する理解を促進します。また、墓地・葬斎場の適正管理を行います。

5－(2) 移動と防災・消防救急で命と暮らしを守る

SDGs

ナンバー 3, 4, 9, 11, 13, 17

①安全な道路と公共交通で、冬の暮らしと移動を支える

安全な道路と公共交通により、だれもが事故なく必要なときに移動でき、冬も外出できる環境を保ちます。

地域の実情に合った移動手段の確保に向けて関係機関と検討を進め、農業機械の混在を踏まえた交通安全教育と道路の計画的な維持補修を進めるとともに、除雪機械と担い手の確保を含め除雪体制を維持・充実させ、通学路や幹線道路、高齢者世帯の周辺など優先度に応じた作業を行い、地域の支え合いによる除雪を支えます。

②災害に備え、地域の対応力を高める

災害時に一人ひとりと地域が適切に行動し、正確な情報と支援が速やかに届く体制をつくります。

防災訓練やハザードマップの周知、家庭の備蓄など自助の意識啓発を進めるとともに、自主防災組織の育成や避難行動要支援者への支援体制を整備し、地域で支え合う共助の仕組みづくりや情報伝達、広域的な連携を強化します。

③消防・救急で命を守る

住宅用火災警報器の設置促進や火災予防運動を通じて町民の防火意識の向上を図り、消防車両・資機材を計画的に更新して火災の発生と被害の拡大を防ぎます。

消防職員の技術向上や救急救命士の養成、医療機関との情報共有により迅速に対応するとともに、応急手当講習とAEDの普及促進を通じて、救命率の向上と救急車の適正利用に関する啓発を進めます。

【政策6 町民とともに持続可能な町政を進める】

【基本目標】

多様性を認め合い、町民とともに計画を着実に進め、持続可能なまちを実現する協働・共生のまちづくり

【現状】

本町のまちづくりは、町内会や実践会による地域活動と住民同士の支え合いによって育まれてきました。また、本町で暮らす外国人住民の多くは、本町に住み続けたいと考えています。

一方で、地域では地域活動に対する理解の低下や担い手不足が進み、行政では公共施設の老朽化と更新、財源の確保、職員体制の維持、行政手続のデジタル化への対応が同時に求められています。

【課題】

参加しやすい対話の形を取り入れて多様な声を町政に反映させ、地域活動の活性化を支えるとともに、若い世代や女性も参画できる多様性を認め合う地域づくりが必要です。

公共施設の配置と更新、未利用施設の方針を早期に定めて近隣自治体と連携し、分かりやすい情報発信と、計画の進捗を毎年度点検する仕組みを定着させる必要があります。

【指標】

(設定作業中)

【施策と取組】

6－(1) 町民の参加と協働で地域を動かす

SDGs ナンバー 4, 11, 16, 17

①町民の声を聞き、担い手を育て、町政に生かす

多様な町民が地域の課題を自分ごととして捉え、ともに考えることで、その声を町政へ反映できるようにします。

少人数での対話や現地での意見交換・学習会など参加しやすい形式を取り入れ、大型事業は早期から説明と対話を重ね、意見の反映結果を公表するとともに、若い世代や子育て世代、転入者など声が届きにくい層への働きかけを強めます。

②町民憲章を守り、郷土愛を醸成する

町民憲章の理念を暮らしのなかに受け継ぎ、郷土を思う心を育みます。

町民一人ひとりが町民憲章の精神を意識し、実践していくことでいつまでも郷土を愛し、訓子府の町民であることに誇りをもてるよう、広報や各種行事などを通じて町民憲章の普及に努めます。

③地域の支え合いを支援する

持続可能な地域コミュニティの実現に向けて、地域活動を活性化する取り組みを支援します。

地域活動への理解促進を図るとともに、担い手不足解消に向けた取り組みや活動拠点の確保など、地域で支え合いながら安心して生活が続けることができるまちづくりを進めます。

④外部人材と地域間交流でつながりを広げる

外部からの知見や新しい視点を地域課題の解決に生かし、その知識と人のつながりを町に残します。

大学等との連携や地域おこし協力隊、地域活性化起業人などの活用により専門的な知見を取り入れて地域に引き継ぎ、高知県津野町との交流やふるさと納税などを通じて本町に関わり続ける人を広げます。

6-(2) 違いを認め、ともに暮らす地域をつくる

SDGs

ナンバー 1. 4. 5. 8. 10. 11. 16. 17

①違いと人権を尊重し、だれもが活躍できる環境をつくる

属性や背景による差別・不利益をなくし、だれもが意思決定と地域活動に参加できるようにします。

性別や世代にかかわらずだれもが個性と能力を発揮できるよう、学習や広報を通じて理解を広げ、仕事と生活の両立支援や相談体制を整えるとともに、女性や若い世代が会議や地域活動に参加しやすい環境をつくり、多様な声が届く地域とします。

②多文化共生を進め、外国人住民の暮らしを支える

文化や生活習慣の違いを理解し合い、言葉の違いによって必要な情報から取り残されないようにします。

国際理解の学習や地域行事、日本語学習の場を通じた交流と担い手の育成を進め、やさしい日本語と多言語による情報提供や相談窓口、関係機関との連携により困りごとを早期に支援へつなげます。

6－(3) 将来を見据えた行政運営を進める

SDGs

ナンバー 3, 8, 11, 16, 17

①行政サービスを支える職員と組織をつくる

限られた職員数でも専門性と継続性を保ち、町民に必要なサービスを安定して提供し、安全な情報管理を徹底します。

研修による専門性の向上と業務知識の記録・マニュアル化を図り、デジタル技術による事務の効率化やオンライン手続の拡大を進める一方、対面での丁寧な支援とデジタルに不慣れな人への支援を両立します。

②自治体間の連携でサービスを守る

単独では維持が難しい機能を自治体間で補い合い、地域に必要なサービスを確保します。

公共施設の相互利用や維持補修の共同化を検討し、施設の広域利用や統廃合について北見地域定住自立圏をはじめ、近隣自治体と協議するとともに、広域連携のあり方について町民に情報を示しながら検討を進めます。

③持続可能な財政と情報で開かれた町政をつくる

将来世代へ過度な負担を残さず必要な行政サービスを維持し、町政の透明性を高めます。

有利な財源を確保に努めた事業実施や、公共施設等総合管理計画に基づく施設管理と利用料の適正化を進めます。あわせて、多様な媒体による情報発信を強化し、行政情報の見える化と文書の適切な整理・保存、積極的な情報公開を通じて、町政運営の透明性を一層高めます。